

# 森の時間

山形大学農学部から

みなさんへ

「エネルギーウエンテ (Enerjiwente)」というドイツ語で「エネルギーの革命の大転換、維新」という意味のドイツ語です。日本では「エネルギーシフト」ということの方が多いようです。エネルギー源を既存の化石や原子力から、太陽光、風力、水力、バイオマスなどの再生可能エネルギーへ転換することをいいます。

石油などの化石資源によるエネルギー生産は温室効果ガスを放出することで、地球の温暖化を促進させます。また、原子力は、チェルノブイリや福島原発での安全性が問われ、かつ放射性廃棄物処理の困難性が問題になっています。さらに、化石資源やウランは有限で、将来的には枯渇することが確実視されています。

エネルギーウエンテは、このような化石資源や原子力に頼らない再生可能なエネルギーの生産と供給を行うための構築を目標としています。そのメ

リッドは、たんにエネルギーの地域内自給に留まれません。これまで多額のお金を出して、遠くから(多くは大手の電力会社から)エネルギーを買っていましたが、そのお金が地域内で循環するようになり、地域の中で回るお金が増え、結果的にそこに雇用が生まれます。そうです。エネルギーウエンテは、う

## ザンクト・ペーター

### 森の中のバイオエネルギー村

まく定着すれば雇用促進、ひいては地域活性化にもつながるのです。

地域住民の主導で実現したエネルギーウエンテをテーマにした『シエナワの樹い』という有名なドキュメンタリー映画があります。映画の舞台であるシエナワは、シ

ユヴァルト(無印の西の玄関口であるフライブルクから約24キ南東、森の中にある

人口2300人ほどの村です。シエナワの成功を契機に、ドイツのあちこちでエネルギーウエンテの動きが盛んになってきています。

ザンクト・ペーター村は、フライブルクから東へ15キロほど、やはりシュヴァルトヴァルトの中にあり、人口2000人あまりの小さな修道院村です。ここでも村民が市民エネルギー組合をつくり、エネルギーウエンテを進め、2010年には、エーテン・ウエルテンベルク州で16番目の「バイオ

エネレーション」(略してコジエネ)は、熱電併給」と訳され、発電機から電気といっしょに熱も取り出して、温水や蒸気、動力に変え、給湯や冷暖房に使用するしくみのことをいいます。

ザンクト・ペーター村では、太陽光、水力、風力、バイオマスを組み合わせ、これらの条件をすべてクリアし、電力は需要量の約3倍を生産、熱も需要量の約8割を自然エネルギーと、森から産出される木質バイオマスを燃やして得られる電力に照らされ、熱に温められる生活。日本では、いつどこで実現するのでしょうか。森林文化都市・鶴岡でもぜひ挑戦してほしいものです。

平 智

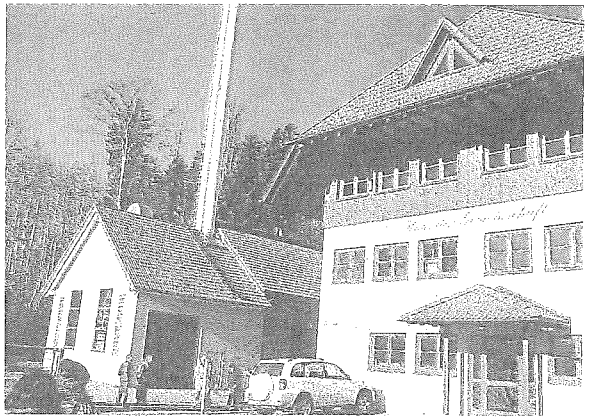
から調整された木質ペレットを原料としています。その結果、この村だけで年間約2万トンの二酸化炭素の排出が約100万トンの石油燃料の削減を実現しているといわれています。

本紙ホームページでもカラー写真が閲覧できます。

(山形大学農学部教授、専門は園芸学および人間・植物関係学)



ザンクト・ペーター村のシンボルでもある教会(修道院)。年に数回、クリスマスコンサートなども開催されます。



村の公民館の隣に建てられたバイオマスセンター(左側の建物)。木材チップとペレットの燃焼・発電(コジエネ)装置が設置されています。(いずれも2016年12月1日撮影撮影)